

都市政策と交通政策の相互連関

主査 城所幸弘(政策研究大学院大学教授)

都市政策と交通政策は相互に密接な関連をもっている。しかし、この2つの政策は局所的な観点で論じられることが多い。例としては、道路政策を考える際には、道路政策のみに注目し、公共交通に対する影響はないと考えたり、交通政策と都市の成長政策の直接的な関連は考えないとしたりすることが挙げられる。本研究は、都市政策と交通政策を理論的に統合することを目指した試みである。

本研究では、幅広い専門分野の研究者と協同して、都市政策と交通政策を掘り下げて分析した。そのために、平成22年度において9回の研究報告会を開催し、メンバー間で活発な意見交換を行った。研究報告をお願いした研究者は、下記の国内外の18名の方々である。荒木大恵（京都大学）、山崎福寿（上智大学）、Yukako Ono (Federal Reserve Bank of Chicago)、Jose A. Gomez-Ibanez (Harvard University)、Miwa Matsuo (University of Iowa)、Marcus Berliant (Washington University in St. Louis)、森岡拓郎（東京大学）、Sergey Kokovin (Novosibirsk State University)、岩田真一郎（富山大学）、城所幸弘（政策研究大学院大学）、日原勝也（東京大学）、Tae Hoon Oum (University of British Columbia)、吾郷貴紀（高崎経済大学）、松井建二（神戸大学）、田中亨憲（大阪大学）、Fu-Chuan Lai (Academia Sinica)、秋山祐樹（東京大学）、Ching-mu Chen (National Taiwan University)

研究会で得られた知見をもとに、「都市集積の経済と交通投資の費用便益分析」、「交通ネットワーク内での収入還元政策-理論とシミュレーション-」、「非効率な資本税がある場合の都市混雑政策と経済成長について」という3つのテーマで報告書を作成した。